

■ 本文

※例文は学習用に作成しています。

- ① 都にのぼりて、久しき友に会ひぬ。
- ② 雨降りければ、出でずして家にとどまりけり。
- ③ この人は、まことに心ある人にありけり。
- ④ 鳥の声を聞くに、心すずしくなりぬ。
- ⑤ 花、いと美しく咲きにけり。
- ⑥ 春の野はのどかにして、人の心ものどけし。
- ⑦ 老いたる馬、ついに道のほとりに死にけり。
- ⑧ さらに知らぬ国の言の葉を学ぶ。
- ⑨ 月の都の人にてなむありける。
- ⑩ 文を書きにたり、まだ送らず。
- ⑪ 静かに歩みて、堂の前に立つ。
- ⑫ 約束せしを違へけるに、いと恨めし。
- ⑬ 暁に、鶏の声しきりに聞こゆ。
- ⑭ かの僧、年老いて山に往にけり。
- ⑮ これは竜の頸の玉に侍り。
- ⑯ つひに本意のごとくなりけり。

■ 設問 (全22問)

1. 傍線部①「に」の種類を、次の①～⑦から選べ。

選択肢：①格助詞 ②接続助詞 ③断定の助動詞「なり」連用形 ④完了の助動詞「ぬ」連用形 ⑤形容動詞ナリ活用連用形活用語尾 ⑥ナ変動詞連用形活用語尾 ⑦副詞の一部

そう判断した根拠を、直前の語の品詞をふまえて述べよ。

2. 傍線部②「に」の種類を①～⑦から選び、現代語訳とともに答えよ。

3. 傍線部③「に」の種類を①～⑦から選べ。

直後にどんな語が続いていることが判断の手がかりになるか。

4. 傍線部④「に」の種類を①～⑦から選べ。

直前の「聞く」の活用形を答えよ。

この「に」を含む部分を現代語訳せよ。

5. 傍線部⑤「に」の種類を①～⑦から選べ。

直前の「咲き」の活用形と、直後の語を手がかりに根拠を述べよ。

6. 傍線部⑥「に」の種類を①～⑦から選べ。

終止形（言い切りの形）を答えよ。

7. 傍線部⑦「に」の種類を①～⑦から選べ。

「死に」の「に」が他の用法と紛らわしい理由を簡潔に説明せよ。

8. 傍線部⑧「に」の種類を①～⑦から選べ。
9. 傍線部⑨「に」の種類を①～⑦から選べ。
「にて」の形に着目し、判断の根拠を述べよ。
10. 傍線部⑩「に」の種類を①～⑦から選べ。
直前の「書き」の活用形と直後の「たり」を手がかりに根拠を述べよ。
11. 傍線部⑪「に」の種類を①～⑦から選べ。
この「に」を含む語の終止形を答えよ。
12. 傍線部⑫「に」の種類を①～⑦から選べ。
直前の「ける」の活用形を答え、現代語訳を示せ。
13. 傍線部⑬「に」の種類を①～⑦から選べ。
ここでの「に」が表している意味（時・場所など）を答えよ。
14. 傍線部⑭「に」の種類を①～⑦から選べ。
直前の「山」と「往に」のうち、傍線部はどちらに属するかを明らかにして根拠を述べよ。
15. 傍線部⑮「に」の種類を①～⑦から選べ。
直後の「侍り」が判断にどう関わるか説明せよ。
16. 傍線部⑯「に」の種類を①～⑦から選べ。
17. ③「人にありけり」の「に」と、⑮「玉に侍り」の「に」は同じ種類か異なる種類か。理由とともに答えよ。
18. ③の断定「なり」連用形の「に」と、⑤の完了「ぬ」連用形の「に」とを見分ける決め手を、直前の語の活用形の違いに着目して説明せよ。
19. ①の格助詞「に」と、③の断定の助動詞「なり」連用形の「に」とを区別する方法を、直前の語と直後の語の両面から記述せよ。
20. 次のうち「形容動詞・ナ変動詞・副詞の一部（＝活用語尾や語の一部としての『に』）」に当たるものを、傍線部⑥⑦⑧⑩⑯からすべて選べ。
21. 傍線部⑤と⑩は、いずれも直前が連用形で直後に助動詞が続く点で形が似ている。両者がともに同じ種類だと言える理由を述べよ。
22. 「連用形＋に＋けり」という並びを見たとき、その「に」を何の助動詞だと判断できるか。本文中の該当する番号を挙げて答えよ。